

(明治三十三年五月八日第三種郵便物認可) 每月四日十四日廿四日三回發行

# 縣報

第四十四號

明治卅四年六月廿四日

## 和歌山縣

### ○縣令

○和歌山縣令第三十八號

明治三十四年三月當縣令第二十五號縣稅賦課規則施行細則第十六條中「十日以下ノ拘留又ハ一圓以上拾圓以下ノ置金ニ處ス」トアキラ「壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス」ト改正ス

明治三十四年六月十四日

和歌山縣知事

梅 素一郎

縣報第四十四號

明治三十四年六月二十四日

第三種郵便物認可

二

總辦

縣報  
總辦  
山縣

五月八日

○和歌山縣令第三十九號

和歌山縣立中學校名稱位置及生徒定員ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治三十四年六月十九日

和歌山縣知事

椿 泰一郎

名稱

位置

生徒定員

和歌山縣立和歌山中學校

和歌山市七番丁

六百名

和歌山縣立田邊中學校

西牟婁郡田邊町

四百名

和歌山縣立田邊中學校新宮分校

東牟婁郡新宮町

二百名

和歌山縣立粉河中學校

那賀郡粉河町

四百名

和歌山縣立德義中學校

和歌山市九番丁

三百名

縣報第四十四號

明治三十四年六月二十四日

第三種郵便物認可

四

○訓令

○和歌山縣訓令甲第三十七號

郡 師 市 町 市  
 役 範 役 役 役 役  
 所 學 所 所 所 所  
 小學校 小學校 小學校 小學校 小學校

小學校令施行規則第二十三條ニ基ツキ小學校兒童成績考查法ヲ定ムルコト左ノ如シ  
 明治三十一年十月當縣訓令第三百廿七號ハ廢止ス  
 明治卅四年六月十七日

和歌山縣知事

椿 泰一 郎

記

小學校兒童成績考查法

第一條 兒童ノ成績ハ操行及學業ニ分チ學業ハ各教科目ニ分チ各教科目中國語科ハ更ニ讀  
 ミ方、書キ方、綴リ方ニ分チテ考查スルモノトス  
 但尋常一學年ノ國語科ハ之ヲ分タザル事ヲ得

第二條 操行成績ハ平素ノ言行ヲ觀察シテ之ヲ考查スルモノトス

第三條 學業成績ハ平素左ノ二法ヲ併用シテ之ヲ考查スルモノトス  
 但國語科中ノ書キ方綴リ方及体操唱歌圖画裁縫手工等ハ甲種考查法ノミニ依ル事ヲ得

一、甲種考查法 平素教授ノ際兒童ノ應答或ハ成績物ニ依リテ考查スルモノトス

二、乙種考查法 臨時ニ定メ問題ヲ課シ其答案ニ依リテ考查スルモノトス

第四條 成績ノ品定ハ之ヲ五等ニ分チ左ノ評語ヲ以テ之ヲ表ワスモノトス

最良(畧符さ) 良(畧符り) 可(畧符か) 稍可(畧符や) 不可(畧符ん)

但考查ノ際學業成績ニ限り左ノ標準ニ依リ點數ニ改算スルコトヲ得

最良 十點 良 九點 可 七點 稍可 五點 不可 三點

第五條 品定ノ標準ハ當該學年ノ程度ニ於テ尋常ナルモノヲ可トシ稍之ニ優ルモノヲ良ト

シ稍劣ルモノヲ稍可トシ特ニ優等ニシテ拔群ナルモノヲ最良トシ劣等ナルモノヲ不可ト

ス

第六條 成績ノ考查ハ之ヲ別テラ學期末成績及學年末成績ノ二種トシ學期末成績ハ平素ノ

成績ニ基キ之ヲ考查シ學年末成績ハ各學期末成績ニ基キ之ヲ考查スルモノトス

但學業成績ニアリテハ每學期間二回以上考查スルモノトス

第七條 各學年ノ課程ノ修了若ハ全教科ノ卒業ヲ認定スルハ學年末ノ成績左ノ標準ニ達シ

タルモノヲ合格トス

但特別ノ事情アルトキハ此限ニアラス

一、操作成績可以上

一、各教科目成績稍可以上

一、各教科目平均成績可以上

第八條 成績考查簿ハ左ノ様式ニ準據スルモノトス

姓名		第一學期			第二學期			第三學期			前學年未成績	項目
學期未成績	學期未成績	學期未成績	平素 / 第一回	成績	平素 / 第二回	成績	學期未成績	平素 / 第一回	成績	學期未成績	前學年未成績	項目
												修身
												國語
												算術
												平均
												操行
												出席日數
												缺席日數
												病氣事故
												遲參度數
												早退度數

經書第十四號

明治三十四年六月二十四日

第三種郵便物認可

八



○和歌山縣訓令甲第三十八號

郡 役 所  
 警 察 署  
 警 察 分 署  
 市 役 所  
 町 村 役 場

赤痢病ノ豫防ニ就テハ一昨年訓令甲第七十八號ニテ訓令シ置キタルヲ以テ其設備完成シ居ル可シト雖モ今ヤ該病豫防上尤モ注意ヲ要ス可キ季節ナル折柄本月十七日縣下東牟婁郡三輪崎村ニ二名ノ赤痢患者發生シ且ツ近府縣ニ於テモ該病流行ノ兆アリ抑モ該病從來ノ經歷ニ依レハ薄暑ノ候ニ發生シ爾來往々患者ノ續發ヲ見ルニ至ル次第ナレハ此際各郡市ニ於テモ何時如何ナル關係ヨリ病毒ノ侵入スルヤモ計リ難ク其豫防ノ處置ニ就テハ從來屢々訓令セシ如ク清潔法ヲ嚴行シ一面患者ノ發見ヲ迅速ナラシメ病院病舎ハ常ニ修理掃除シ器具藥品ハ之ヲ用意シ置キ何時ニテモ收容ニ差支ナキ様豫防機關ヲ整備シ患者發生ノ際ハ迅速ナル處置ヲナシ病毒ノ散蔓セサルニ先チ局部ニ於テ撲滅ヲ計ルノ措置ヲナシ豫防上遺策ナキヲ期ス可シ

明治三十四年六月二十日

和歌山縣知事 梅 泰 一 郎



○告 示

○和歌山縣告示第百二十八號

農商務省蠶業講習所ニ於テ本科傳習生募集ノ旨通知アリ志願者ハ左記ノ藩々相心得願出ヘシ  
明治三十四年六月十二日 和歌山縣知事 椿 素一郎

一農商務省蠶業講習所傳習ニ關スル規則ハ明治三十三年六月廿一日本縣告示第百四十一號

ニアリ

二東京及京都蠶業講習所ニ於テ各府縣ヲ通シテ募集試驗合格者中優等ナル者ヨリ順次貳拾  
五名宛選拔入學許可セラルヘシ

三願書ハ履歷書及体格檢査証ヲ添ヘ七月二十日マテニ當廳ヘ着スヘキ様郡市役所ヲ經テ差  
出スヘシ履歷書及体格檢査書式ハ第一項ニ示シタル規則ニアリ

四入學試驗ハ八月中當廳ニ於テ行フ

五入學志願者ハ東京及京都蠶業講習所ノ孰レニ志願スモ差支ナシ

六規則書ヲ要望スル者ハ郵券二錢封入京都蠶業講習所ヘ請求セハ送付セラルヘシ

七志願者ハ規則ヲ熟覽シ願書等不備ナラサル様注意ヲ要ス

○和歌山縣告示第百二十九號

左記ノ者明治三十四年度本縣蠶種檢査員ヲ命セリ

明治三十四年六月十二日

和歌山縣知事

椿 素一郎  
星田伊三郎

○和歌山縣告示第百三十號

當縣々立學校名稱自今左ノ通改ム

明治三十四年六月十九日

和歌山縣知事

椿 泰一郎

改稱

舊稱

和歌山縣立和歌山中學校

和歌山縣第一中學校

和歌山縣立田邊中學校

和歌山縣第二中學校

和歌山縣立田邊中學校新宮分校

和歌山縣第二中學校新宮分校

和歌山縣立粉河中學校

和歌山縣第三中學校

和歌山縣立德義中學校

和歌山縣德義中學校

和歌山縣立和歌山高等女學校

和歌山縣高等女學校

○和歌山縣告示第百三十一號

明治三十四年三月本縣告示第四十九號蠶業講習會設置ノ位置區域中有田郡箕島町(元宮崎村)

蠶業講習會ハ廢止ス

明治三十四年六月十九日

和歌山縣知事

椿 泰一郎

○和歌山縣告示第百三十二號

北海道廳ヨリ左記ノ廳令發布ノ旨通知アッタリ

明治三十四年六月廿日

和歌山縣知事

椿 泰一郎

北海道廳令第百號

北海道地方稅地租割反別割水產稅ニ關スル納稅代理人ノ件左ノ通定ム

明治三十四年五月三十一日

北海道廳長官 男爵 園田安實

- 第一條 地方稅地租割反別割ヲ納ムヘキ者其ノ所有土地所在地ノ區町村ニ住居セサルトキハ地租割反別割ニ關スル事務ヲ管理セシムル爲其ノ區町村ニ住居スル者ヲ納稅代理人ト爲シ連署ノ上區ニ在テハ區長ニ町村ニ在テハ町村長ヲ經由シテ支廳長ニ届出ヘシ
- 第二條 地方稅水產稅ヲ納ムヘキ者其ノ營業所所屬稅區内ニ住居セザルトキハ水產稅ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲其ノ稅區内ニ住居スル者ヲ納稅代理人ト爲シ連署ノ上其ノ區ト町村ニ涉ル稅區ニ在テハ區長ニ其他ニ在テハ町村長ヲ經由シテ支廳長ニ届出ヘシ
- 第三條 納稅代理人ハ帝國ノ臣民ニシテ公權ヲ有スル能力者タルコトヲ要ス
- 第四條 第一條第二條ニ違背シタル者ハ一圓以下ノ科料ニ處ス
- 第五條 戶長役場所轄區域ハ一町村、戶長ハ町村長ト看做ス

附則

第六條 本令ハ發布ノ當日ヨリ施行ス

○和歌山縣告示第百三十三號

兵庫縣ニ於テ左記ノ縣令發布ノ旨通知アリタリ

明治三十四年六月廿日

和歌山縣知事

椿 素一郎

兵庫縣令

明治三十三年十二月 兵庫縣令第八十五號中東京府ノ下「及京都府京都市愛宕郡神奈川縣久良

岐郡三浦郡千葉縣安房郡長野縣小縣郡石川縣石川郡金澤市ノ四十二字山羊ノ下「隊」ノ一  
字ヲ削除シ明治三十四年<sup>一</sup>月兵庫縣令第九號明治三十四年<sup>四</sup>月兵庫縣令第三十六號ヲ廢止ス  
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十四年六月十五日

兵庫縣知事 服部 一三

○和歌山縣告示第百三十四號

兵庫縣下朝來郡與布土村ノ内溝黒村ニ於テ本月四日牛壹頭氣腫疽ニ罹リ全五日撲殺セシ旨  
通知アリタリ

明治三十四年六月廿日

和歌山縣知事 椿 葵 一郎

○告 諭

○和歌山縣告諭第四號

赤痢病の豫防に就ては先年來屢々告諭する處わり各自同病に對する豫防方法は業に既に知  
得する處なりと雖も目下其豫防上最も注意を要すへき季節なる折柄本月十七日縣下東牟婁  
郡三輪崎村に於て二名の赤痢患者發生せり抑も該病從來の經歷ハ依れば薄暑梅毒の候に發  
生し炎暑より秋冷の時に涉り益々傳染波及して慘毒を逞する恐る可き猛惡なる傳染病にし  
て其發生に際し豫防を怠るときは直に病毒散蔓延ひて一町村又は數町村内に傳播して生命  
を失ひ財産を傷け非常なる慘狀に陥りたる事少なからされは此際該病の豫防に就ては各自  
相警戒し近隣相助け可及丈居宅内外清潔法の持續身體の攝生及飲食物衣服に注意を加へ萬

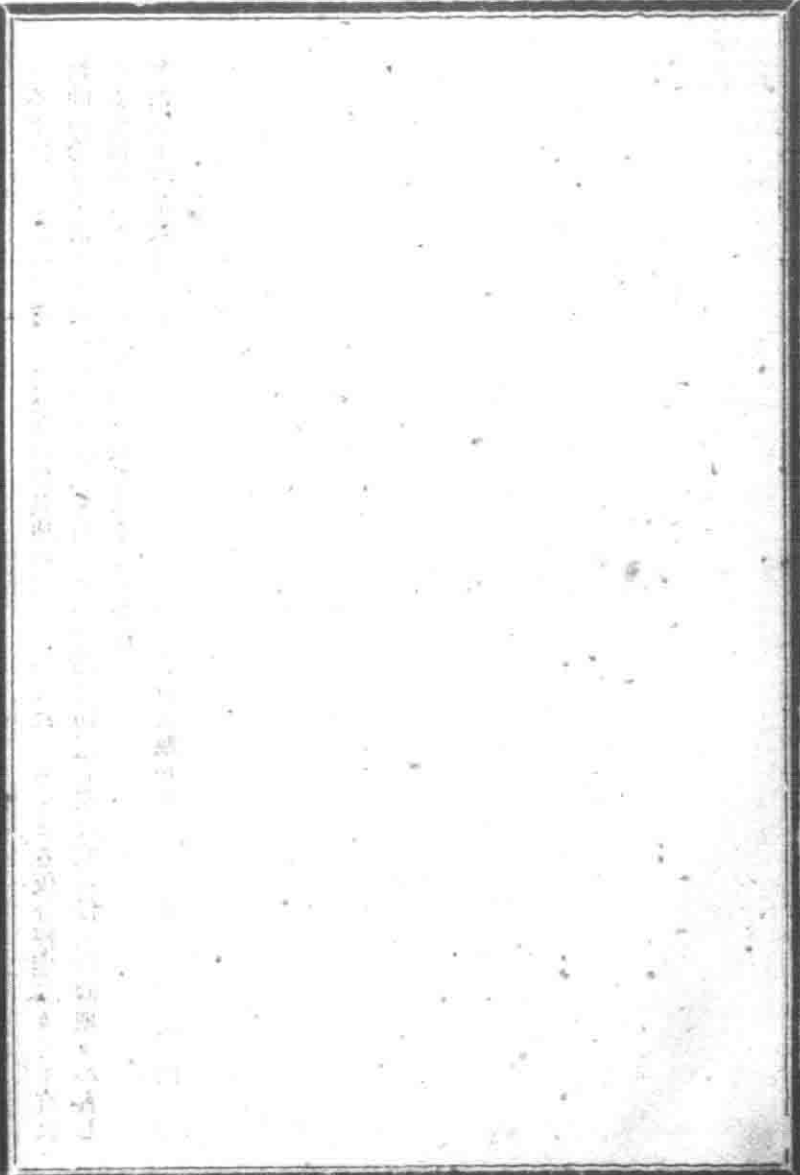
一不幸にして其病に罹り或は疑以症其他の疾病に侵されたるるときと仮令輕症なりとも直に醫師の診察を求め適切な治療を受けて病毒を一局部に防遏し又は病毒侵入の餘地なからしむる様圖々人々深く注意を加へ放て怠ること勿れ

明治三十四年六月二十日

和歌山縣知事

椿 兼一郎

縣報第四十四號。 明治三十四年六月二十四日 第三種郵便物認可 十六終



(明治三十三年  
五月八日 第三種郵便物認可)  
(每月四日十四日廿四日三回發行)

明治三十四年六月二十三日印刷、並買代價金

和歌山市九番丁丸番地